

10月8日

小学生がCE見学

つがる市立向陽小学校5年生54人が、きづくりカントリーエレベーター(CE)を見学しました。社会科学習の一環として、米の収穫後の流れや農業施設の役割を学びました。

児童らはJA職員の説明を受けながら、乾燥や調製の工程、施設全体の設備を管理する操作室を見学。「1日にどのくらいの米が入ってくるのか」「もみから玄米にするまでどのくらい時間がかかるか」など積極的に質問し、地域農業と米づくりの仕組みへの理解を深めました。



操作室のモニターを見ながら説明をする
JA職員

10月8日

水稻種子 生産ピーク

当JAの木造種子乾燥調製施設で、水稻種子の生産が行われています。作業員らは、水分量や選別基準を確認しながら、もみを乾燥、選別し、調整しています。作業は年末まで続きます。

木造地区では生産者約30人が採種圃104畝で種子となる「まっしぐら」「あかりもち」を栽培。9月8日に刈り取りを始めました。出来上がった水稻種子は20㍑ずつ袋詰めされ、来年2月、生産者に届けられます。



水稻の種子を袋に詰める作業員

10月9日

高校生が職場体験・見学

10月、地元高校生が相次いで当JAを訪れ、インターシップや職場見学を通じてJAの仕事にふれました。

五所川原農林高等学校食品科学科2年生の小野類さんは、9日～11日の3日間にわたりインターシップを実施。本店やまるっと新鮮館などで職員の業務を体験しました。小野さんは「JAで働くイメージができた」と話しました。

一方14日には、五所川原工科高等学校普通科2年生で就職を希望する22人が、職場見学として訪問し、中央りんごセンターや野菜予冷センターを見学しました。

JAでは、若い世代に地域農業やJAの仕事を知ってもらい貴重な機会とし、今後も積極的に受け入れていく考えです。



▶まるっと新鮮館で
お客様対応する小野さん④



▶中央りんごセンターを
見学する生徒



9
10

農を語れる JA職員の育成

金融部は、支店窓口で貯金業務を担当する職員を対象に、太田専務の園地3か所で園地視察勉強会を開催しました。JA職員として「農」について理解し知識を深めることで、組合員との信頼関係を築いて選ばれる金融機関を目指しています。

りんご園地では、高密度栽培や稼働するロボット草刈り機を見学し、さまざまな栽培形態やスマート農業などについて学びました。その他、ワイン用ぶどう、きゅうりの圃場も見学し、複合経営のメリットや今後の展望などについて説明を受けました。

太田専務は「農家がいなくなると日本の食の安全が崩れる。組合員を支え、組合員と共に食を守るのがJA職員の努め。農を語れる職員となり、窓口に来店した組合員と信頼関係を築いてもらいたい」と話しました。



9
16~

農福連携への取り組み

当JAは、障がいのある方の就労支援と農家組合員の労働力確保を目的に、農福連携に取り組んでいます。

弘前市清水にある福祉事業所「チョコドーナツ弘前」の利用者と職員は、藤崎支店管内のりんご園地で反射シート張りの作業を行いました。園主は「りんごの収穫で手が回らないので助かる」と話しました。



8
26~

農業用 使用済プラスチック回収

当JAでは毎年、農業用使用済プラスチック（廃プラ）の回収を行っており、今年度は、管内5支店の駐車場で、合計115人の組合員から約7・1tを回収しました。

不用となった農業資材や肥料袋、使用済農薬容器などを回収して、野焼きや不法投棄を防ぐことが目的です。回収した廃プラは、産業廃棄物処理業者に委託し処分します。

各支店と物流係の職員は、事前に廃棄物の処理委託を申し込んだ組合員の不用となった反射シートや育苗箱などを回収しました。物流係の下山係長は「野焼きなどはせずにJAが行う回収の機会を利用して適切に処理して欲しい」と話しました。



農福連携
障がいのある方々が農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取り組み



体をかがめて慎重に作業しました

10月10日、成田達也さんの園地において、青森森林組合連合会の職員2名が葉取りの作業を行いました。二人とも青森県内出身ではありますが、リンゴ作業に携わる事が全くなかったため、園主さんから指導を受けながら、リンゴを誤って落とさないように注意を払いながら、大きな体を屈めて丁寧に作業を行っていました。

青森森林組合 連合会援農



農作業で皆さんをお手伝いします

10月10日から17日までの4日間、当JA管内の4箇所の園地において、共済連青森県本部の職員9名が葉取りや収穫などの作業を行いました。

この取り組みは毎年行われており、受入れ農家さんがその時行つた作業を説明し、職員は農作業体験を通じて農繁期の労働力不足の解消に一役買っています。今年初めて援農に訪れた総務課の福井さんは、「園地に来るまで不安でしたが、作業を優しく教えてもらい、リンゴの周りをどのくらいまで葉っぱを取り除いて良いのか判断が難しかった」と話してくれました。

共済連援農



6人で公正に審査を行いました

10月20日、中農農林水産事務所農業普及振興室と農業振興課の6名は、管内の園地で立木審査を実施しました。審査対象の品種は、有袋ふじ10点、サンふじ13点、王林9点の合計32点が肥大・着色・収量・病害虫・管理の5つの項目において、本年産の出来栄を確認しながら審査されました。

今年の夏は高温・干ばつなどがあつたものの、審査対象の園地では、どの項目においてもおおむね良好な生育が見られました。

共済連立木審査



リンゴを盗難から守りましょう

10月22日、当JAではリンゴ盗難防止パトロールを開始しました。盗難を未然に防ぐために主力品種「ふじ」の収穫最盛期に合わせて相馬管内の巡回を強化しています。

近年では、収穫したリンゴを持ち去るだけでなく、脚立や農機具の盗難も発生しておりますので、作業後は必ず小屋に収納施設して、被害に合わないよう十分に注意しましょう。見慣れない車両や不審者にも警戒し、近隣で情報を共有して対策を講じていきましょう。

盗難防止に努めよう



各地区で子どもたちが収穫体験



営農課では、食農教育の一環として管内の子どもたちへ農作業体験の支援をしています。

尾上地区のわんぱく農園では、10月23日は平川市の日の出こども園、29日は平川市立金田小学校がさつまいもの収穫体験を行いました。子どもたちは、職員や女性部員の手ほどきを受けながら、一生懸命収穫しました。



さつまいもを収穫する園児

航空会社社員が収穫作業を応援



10月28日から30日、日本航空株式会社（JAL）の社員4人は、「農作業応援活動」のため平賀地区を訪れ、りんごの収穫作業を行いました。

社員はりんごを傷つけないよう慎重に行い、高い場所にあるりんごはハシゴを使って収穫しました。

生産者は「収穫は人手が必要な作業なのでとても助かる。今後も継続してくれるとありがたい」と話しました。



りんごを収穫する日本航空社員

常盤地区良食味米競技会



ときわ良質米生産部会（横山英樹部会長）は10月23日、常盤支店で良食味米競技会を開き、令和7年産米の審査を行いました。部会員15人が出席し、「青天の霹靂」「まっしぐら」「はれわたり」などの玄米サンプル25点（1点300g）を審査しました。

審査結果は、来年1月に関く同部会通常総会で発表され、上位4位が表彰される予定です。



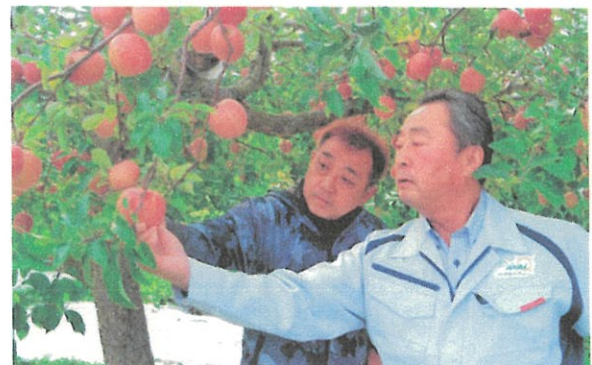
目視で品位鑑定を行う部会員

常勤理事が各地区の園地を訪問



奈良寧組合長をはじめとした常勤理事5人は、10月中旬にりんごの生育確認とJAへの入庫をお願いするための園地訪問を実施しました。

奈良組合長は「病害虫による大きな被害もなく、順調に生育したようで安心した。今後も、生産者に少しでも多くJAへの入庫をお願いし、市場からの要望に応えられるよう努めたい」と述べました。



園地を訪問した奈良組合長

10/15



ナガイモ最終坪掘り調査

野菜振興会ながいも専門部会は、大深内支店構内でナガイモの最終坪掘り調査を行いました。8月中旬以降のまとまった雨の影響で、奇形が見られるほ場もありますが、作柄はおおむね良好。10㎡当たりの収量は平年並みの3,000㎏、A・B品率は63%となりました。

坪掘り調査は8月から毎月行ってきました。最終の今回は、JA管内25カ所のほ場から連続で5本ずつ掘り取り、ナガイモの全長や全重、品質などを調査しました。

収穫は11月中旬から始まる予定。JAではツルが完全に枯れたことを確認してから掘り取りとることや、収穫・出荷時の折れなどに注意するよう呼びかけ、安全で良質な出荷をめざします。



▲ナガイモの生育を確認するJA職員ら

10/8



越冬見据えて ニンニク植え付け

JA管内では10月上旬から下旬にかけて、ニンニクの植え付け作業が盛んに行われました。今年の作付面積はJA登録分で250畝(種子分を除く)を見込んでおり、生産農家は大玉生産に向けて、越冬前に生育を進めようと作業を急ピッチで進めていました。

十和田市の附田常雄さんと妻の秀子さん、息子の健さんは5日に植え付けをスタートし、60㎡分に当たる約9万片を植え付けました。

半世紀以上ニンニクを栽培してきた常雄さんは「雪が降るまでは、葉数を4枚程度に抑えることが大切。雪の下で冬眠させることで美味しいニンニクができる。来夏も大きく元気なニンニクを収穫したい」と意気込んでいました。



▲ニンニクを植え付ける秀子さんと健さん

10/23



農福連携への理解・知識を深める

十和田市の仁和千春さんの作業小屋で、上北地域農福連携現地研修会が開かれました。農業者や福祉事業所職員、関係機関など約40人が参加し、施設利用者がネギの調整作業をする様子を見学したり、実際の作業を体験したりして理解を深めていました。

意見交換会では、各地域の共同受注窓口の状況や委託作業、通勤課題などさまざまな意見や質問があがっていました。

青森県では現在、ユニバーサル農業の取組拡大に向けて、地域の状況を踏まえたマッチング支援などを進行中。今後は、農業者と福祉事業所の交流会やショッピングモールでのイベント開催などで農福連携への理解促進を進めていきます。



▲ネギの調整作業を体験する福祉事業所の職員ら

10/8 年金友の会 合併15周年記念グラウンド・ゴルフ大会



プレーを楽しむ参加者ら

J A ゆうき青森年金友の会は、東北町北総合運動公園で合併15周年記念グラウンド・ゴルフ大会を開催した。当日は天候にも恵まれ、37人が熱戦を繰り広げた。

当J Aの原子孝代表理事常務は「15周年を記念して豪華賞品も用意している。ケガのないよう楽しくプレーしてほしい」とあいさつ。参加者は8チームに分かれて24ホールをプレーし、親睦を深めた。

参加者は「他の地域の人との仲良くプレーできて楽しかった」と話した。

上位入賞者は次のとおり。(敬称略)

【男子の部】	【女子の部】
1位 安達 一男(野辺地)	1位 鎌本 ミヤ(東北)
2位 ニッ森義昭(野辺地)	2位 甲地ふみゑ(東北)
3位 玉山 具夫(野辺地)	3位 ニッ森末子(野辺地)

10/17 ナガイモ収量調査 太さ・長さ良好



調査を行う職員

J A ゆうき青森野菜振興会ながいも部会は、ナガイモ収量調査を行った。長さや重量ともに良好で、肥大も順調。年間予想収量は7,352トンで、管内の収穫は11月10日から始まる予定だ。

調査は、収穫前に毎年実施。管内生産者18戸の圃場を対象に、1圃場当たり10本連続で抜き取り、1本ずつ長さや重量、形状などを調べた。

本年度の管内生産者は342人で、栽培面積は251ヘクタール。10アール当たりの予想収量は2,929kg。

J Aは適期収穫により、あくや皮むけが発生しないよう注意を呼び掛けている。

10/22 和牛子牛管理品評会 阿部さん浜田さんV



去勢の部最優秀賞の「海星号」



雌の部最優秀賞の「めぐみ号」

J A ゆうき青森和牛改良組合は、らくのう営農センター敷地内で第25回子牛管理品評会を開いた。審査の結果、去勢の部は阿部市仁さんが出品した「海星号」、雌の部では浜田竹美さんの「めぐみ号」がそれぞれ最優秀賞に輝いた。

品評会には、東北町のほか七戸町、六ヶ所村の13戸の農家が、去勢の部10頭、雌の部11頭を出

品。審査員が、牛の皮膚を触りながら資質や月齢に合った生育かチェックした。

その他の受賞者は以下の通り。(敬称略)

◇優秀賞◇去勢の部=沢田一成◇雌の部=小比類巻正幸 ◇優等賞◇去勢の部=木村政彦◇雌の部=古内忠明



双子座 (5.21~6.21)

〈全体運〉ドギツとすることがあるかも。外出するときは救急セットや折り畳み傘を携帯して安心。靴は歩きやすいものに〈健康運〉無理をしたら休んで。臨機応変に〈幸運の食べ物〉カリフラワー



おおぞら小・六戸学園 稲刈り

9月22日に三沢市立おおぞら小学校の4～6年生、9月30日に六戸町立義務教育学校六戸学園の5年生が稲刈りを行いました。

代表児童は、「大切なお米を無駄にしないよう『稲はいっぱい感謝もいっぱい』を合言葉に稲刈りをしましょう」とあいさつをし、JAおいらせ青年部部員のサポートの下、鎌を使って手作業で稲の刈り取り作業を行いました。

同小学校は、5月の田植えから秋の収穫まで圃場を借りて、米作りへの理解を深める学習を行っています。児童は、「お米がどのように出来るのかを知れた。お米の大事さが分かった」と感想を述べました。

収穫したモチ米「アカリモチ」、は校地内で天日干しし、「おおぞら米」として12月頃地域の方々への販売を目指し、六戸学園で収穫した「はれわたり」は児童に渡す予定です。



おおぞら小学校の児童と青年部



六戸学園



米の大切さを理解 古間木小学校

10月6日に三沢市立古間木小学校5年生が、バケツ稲の収穫を行いました。これは6月に苗をバケツに植えてから児童が水やりなどの管理を続けていたもので、青年部と指導課職員が刈り取りから脱穀、選別までの作業をサポートしました。

児童は自分のバケツに実った稲を刈り取り、青年部員は上手く刈り取れるよう鎌の使い方などを指導しました。刈り取った稲は、昔ながらの足踏み式の脱穀機で脱穀作業を行い、脱穀後は唐箕（とうみ）という、ハンドルを回すと連動する四枚羽の板が風を起こす農具で、藁くずや籾殻などのゴミと玄米に選別しました。

児童らは興味深そうに昔ながらの農具を用いた脱穀や唐箕のハンドルの回しての選別作業を体験しました。児童からは、お米作りについてたくさんの質問があり、農業の大変さ、食の大切さへの理解を深めるとともに青年部員に感謝の気持ちを伝えました。

収穫したお米はJAおいらせが預かり、乾燥と精米をして児童へ届ける予定です。



精米所巡回

9月18日、中屋敷組合長は三沢市内の精米所を巡回しました。今年は例年よりも早く収穫適期を迎えた為、各精米所もスケジュールを早める等、準備に追われていました。精米所からは概算金の金額について、また毎年の猛暑により収穫適期が変化している事などの現場の声を聞くことができました。

組合長からは収穫適期を逃さず、刈り遅れに注意していただき、事故の無いように気をつけて作業に臨んで下さいとの声かけがありました。



乙女座
8/23～9/22

【全体運】あれこれ考え過ぎない方がいいようです。シンプルにいきましょう。玄関の掃除は念入りに。よく眠れる枕が◎。
【健康運】油断は大敵。早寝早起き朝ご飯で健康維持を。
【幸運の食べ物】サトイモ

獅子座
7/23～8/22

【全体運】一度ストップがかかっても再挑戦の機会に恵まれます。諦めずに続けることが大事。味方は意外と近くにいます。
【健康運】スポーツを楽しむ好機。新しい方法を試すのも吉。
【幸運の食べ物】カレー

丸いも作柄調査



▲ 調査をする関係職員

振興野菜専門部は10月9日、五戸営農センター(東部)で丸いも作柄調査を農業普及振興室の職員、JAの指導員で行いました。

丸いもの有利販売につなげる目的で、管内9カ所の圃場から各5個ずつ、指導員が無作為にサンプルを採取し、重量・等階級を中心に計測を行い、令和7年度の作柄を調査しました。品質については、7月までの乾燥傾向から一気に雨量が増えたことや、集中豪雨があったことから形状はやや劣るが、平均重量は480gで平年比117%となりました。

結果をもとに金澤幹雄専門部長は「種芋の選果には力を入れてきたが、秀品率の割合が思ったよりも低かった。次年度に向け、指導員も原因を探り、品質の向上にあたってほしい」と話しました。

丸いも 出荷時の注意点を学ぶ



振興野菜専門部は10月16日、営農経済本部で丸いも出荷説明会を行い、22人が参加しました。

五戸営農センターの荻沢一雄係長は作柄調査の結果、秀品率の割合は低いものの、平均重量は平年を上回る結果となったことを説明しました。7月までの乾燥傾向から雨量が増えたことや、集中豪雨が数回あったことなどが品質に悪影響を及ぼしました。

さらに、舘俊秀JA販売担当は作柄状況、販売計画、出荷時の注意点を説明し、収穫時期は品質にも影響することから茎葉が7割以上枯れたことを確認してから行うよう生産者へ呼びかけました。



▲ 説明に耳を傾ける参加者

階上支店 年金友の会集い



▲ 交流を深めた会員

階上支店は10月23日、グランドサンピア八戸で「JA八戸階上支店年金友の会集い」を行い、会員24人が参加しました。

集いでは8月の役員改選で選出された新役員を紹介。野沢昭新会長は「稲刈りも終えホッと一息ついているこの時期に温かい温泉につかり、おいしい食事で仲間と楽しい時間を過ごしましょう」とあいさつしました。

カラオケや会員の松倉チエさんによる語り部の披露もあり、笑顔で交流を深めました。

参加した会員は「来年も必ず参加します」と話し、満足した様子でした。



11月5日

精米施設など見学

五所川原市立中央小学校の5年生80人は、同市梅田地区にある精米施設やライスセンターなどの米関連施設を見学しました。米づくりに関わる仕事を学びながら、地域農業への理解を深めました。

児童らは、JA職員から米を乾燥・調製して精米する工程について説明を受けると、熱心にメモを取っていました。また「どれくらいの量を扱っているのか」「なぜ今お米が高いのか」といった質問が寄せられました。

同校は、総合的な学習で米作りを学び、JAの協力でバケツ稲作りにも挑戦しました。



精米前のフレコン入りの玄米を手取る児童ら

11月8日

もぎたてに笑顔

組合員や地域住民を対象としたリンゴの収穫体験と選果施設の見学ツアーを開きました。親子連れを中心に26人が参加。子どもたちは大きく実った旬のサンふじをもぎ取って笑顔を見せました。

収穫体験は、JAの監事でありリンゴの高密度栽培を行う成田靖幸さんの園地で行いました。参加者らは、成田さんやJAりんご課の宮崎浩美課長から説明を受け、リンゴを籠いっぱいにして収穫。その場でかじりついて「もぎたておいしい」と喜びました。

その後、JAの選果施設を見学。糖度や色づきを光センサーで選別し、箱詰めするまでの工程を巡り、おいしいリンゴが出荷される様子に感心していました。



籠いっぱい収穫して満足げな表情を見せる参加者

11月10日・11日

視察研修を実施

野菜振興協議会は、青森県内の農業関連施設を巡る視察研修を行いました。会員12人が参加し、生産から販売までの幅広い取り組みを学びました。

参加者は視察した種苗会社や肥料工場で、高温対策に向けたさまざまな資材・技術についての説明を興味深そうに聞いていました。また、青森県産業技術センター農林総合研究所の視察では、夏秋いちごの隔離土耕栽培を見学し、温度・日照センサーによる環境データをAIが分析し、栽培管理に活用している取り組みについて説明を受けました。

研修に同行した営農指導員は「今回の研修で得た学びを今後の活動に生かしたい」と話しました。



真剣に説明を聞く参加者



10/23・24
29・30

中学生の職場体験受入れ

当JAでは、管内中学校の職場体験受入れに協力しています。

10月23日と24日は、弘前市立第三中学校2年生の3人、10月29日と30日には同市立第一中学校2年生の2人が、河東地区りんご施設を訪れました。りんご販売部施設管理課の職員が、施設の概要やりんご事業などについて説明した後、施設内を見学しました。生徒は、農家組合員が入庫したりんごが消費者のもとに届くまでの流れや販売方法などを学んだ後、選果場に場所を移し、選果されたりんごの箱詰めと箱作りに分かれて作業を体験しました。

同課の奈良課長は「職場体験を通して、働くことの意義などを感じてもらえたら。」

体験したことを忘れず、将来、地域を盛り上げる人材となってくれたらうれしい」と話しました。



10
20

「JAのりんご事業を知る」年間ツアー開催

岩木地区と東地区は合同で、組合員・組合員家族を対象とした「JAのりんご事業を知る」年間ツアーを実施しています。当JAのりんご事業を知り興味を持つてもらうことが目的です。今年度は、参加者園地に出向き、高品質なりんごを生産するために必要な栽培技術の指導、品種や苗木の勉強会、入庫から精算までの説明会などを開催してきました。

10月20日、やさい育苗センターで、岩木地区営農係の佐藤係長が講師を務め、樹体ジョイント栽培や高密度栽培、当JAが推奨するわい性台木を使用して開心形で栽培する栽培体系について説明し、参加者は、りんごの樹形や台木の違いを学びました。その後、河東地区りんご施設において、令和7年産りんご晩生種の山選果基準や取り扱い基準の確認を行ったほか、りんご販売部の職員からは、りんごの販売状況や全国におけるJAつがる弘前りんごの売り場などの報告がありました。

企画運営を行う佐藤係長は「多くの方々に当JAのりんご事業を知ってもらい仲間を増やしていきたい」と意欲を見せました。参加者の一人は「山選果基準はサンプルを用いて説明してくれたので分かりやすい」と話しました。



待ちに待った！
りんご祭り



11月21日から12月7日まで、湯
口グリーンプラザにて毎年大盛況
のりんごまつりが開催されました。

昨年よりも1週間遅れての開催
でしたが、多くのお客さんが開店
前から並んで賑わっていました。
あまりの混みように運搬用の台車
を待つ列ができていました。

直売所会員が会場へりんごの搬
入をしていると、買い物に来たお
客さんから「どのりんごが美味し
いのですか?」「どのりんごを選べ
ばいいのですか?」といった質問を受
けていました。

毎年訪れている常連のお客さん
は「スタッフに相談しながらリン
ゴを選べたり、実際の農家さんと
会話をしながら目の前でりんごを
詰めてもらえるので、安心してお
願いできる」とおっしゃっていま
した。

昨年と比べてりんごの価格はや
や高めですが、「今年も来たよ」と
いう声を聞くと思わずうれしくな
りました。



生産者に話を聞いて選ぶ



品種混ぜて味を楽しみます!!



自分の眼で品定めします



空容器を
廃棄するために
訪れた組合員

11月26日から27日の2日間、湯
口支所および相馬支所において、
使用済みプラスチックの回収が行
われました。

朝早くから組合員が使用済みの
反射シートや農薬の空容器などを
回収ボックスに運んでいました。
「農作業も一段落して、反射シート
の処分ができて良かった」とほっ
としている組合員もいました。

J Aでは年に3回、廃プラスチック
の回収の機会を設けて適切に処
理を行っています。来年の実施
する予定ですので、日時が決まり
次第お知らせいたします。

使用済
廃プラスチック回収



スタッフ一同、お待ちしております♪

11月29日、湯口スタンドに最新
型の洗車機が導入されました。

今回の洗車機には、車両をデジ
タル3Dデータ化するシステムが
搭載されていて、読み取ったデー
タを洗車ブラシや乾燥ノズルの動
作に細かく反映させることで、こ
れまで以上に高品質な洗車の仕上
がりを実現しました。さらに、全
コースで水道水を使用するので、
不純物が少なく、自然乾燥させて
も水シミが残りにくく、拭き上げ
作業を簡素化できます。また、塗
装にも優しいというメリットもあ
ります。

ぜひ、新しい洗車機をお試し下
さい。

最新型洗車機 導入!



地域の祭りでりんご販売



黒石青果センターは11月22日と23日、黒石市の「第34回黒石りんごまつり」でりんごの販売を行いました。県内各地から訪れる消費者に「JA管内で栽培されたりんごの魅力」を伝えることを目的としています。

りんごは贈答用、特選品の「サンふじ」（1㌥／10*_a）、家庭用サンふじ（1㌥／20*_a）などを販売し、2日間で600箱を販売。

購入した来場者は「JAのりんごはおいしいので、毎年買うのを楽しみにしている。家族と一緒に食べたい」と話しました。



来場者が購入したりんごを運ぶ職員

ジャンボおにぎり完成



11月16日、藤崎町の「第13回ふじさき秋まつり」で恒例のジャンボおにぎりづくりを行いました。県のブランド米「はれわたる」10俵分（約600*_a）を使用し、常盤支店管内のときわ良質米生産部会の部会員や、女性部員ら15人が作業を行い完成させました。

炊きあがった米をピラミッド型の木枠に詰め込み形を整え、仕上げに藤崎町の合併20周年を祝う文字が切り取られたのりを、同町の平田博幸町長がおにぎりの正面に貼り付けて仕上げた後、万歳三唱で完成を祝しました。



完成を祝う関係者ら

シャインマスカット若木剪定会



ぶどう生産部会（齋藤晴彦部会長）は11月25日、尾上地区の園地でシャインマスカットの新規作付者を対象とした若木剪定会を開きました。

剪定会では、青森県産業技術センターの職員が講師を務め、若木の特徴や剪定作業のポイントを、実際に枝を切りながら説明しました。



剪定作業のポイントを確認する参加者

令和7年産桃精算報告会



青果部は11月21日、本店で令和7年産桃精算報告会を開きました。今年産の販売額は1億6812万円（前年比92.2%）、入庫数量は4万256箱（前年比86.2%）となりました。

令和7年産は、干ばつ傾向で生育の遅れや着色不足などにより等級下落が見られたが、糖度が高くなったことが高評価につながったことや、市場関係者の努力もあり、原箱単価は3214円（前年比105.9%）になりました。



販売額などを確認した精算報告会



▲大豆の品質を確認する下佐理事

11/7



大豆適期刈り取りで 良品質出荷へ

10月下旬から管内で大豆の刈り取り作業が盛んに行われています。は種後の高温による徒長で、倒伏したほ場が一部で見られましたが、品質や収量はおおむね良好。JAは品質維持のため、刈り遅れがないよう呼び掛けています。

JA大豆センターに入庫された大豆は乾燥・調製して出荷します。一部はJAの十和田湖大豆加工所が製造する「米みそ」の原料となっており、コクがありまろやかな味わいが好評で、地元住民に長年愛されています。

赤沼営農組合の下佐春美代表理事は乾燥・選別後でなければ正確な等級や収量はわからないとしながらも「高温障害などを心配したが、大きな影響はなく安堵している。最後まで適期刈り取りで良品質な大豆を出荷したい」と話していました。

11/2



町のイベントで 特産品や加工品をPR

女性部上北支部と直売の会上北は、東北町のイベント「生き活き産業文化まつり2025」に参加しました。女性部は温かいそばやうどん、長芋ドーナツ、串もちなどを販売。串もちの香ばしい香りにそそられて、長蛇の列ができていました。直売の会は10種類以上のとれたて野菜を販売。漬け物や鍋の具材にしようと多くの買い物客が訪れ、ネギやゴボウ、白菜、キャベツ、ニンジンなどを買い求めていました。

同イベントは東北会場と上北会場の2カ所で開かれ、農産物共進会やビンゴ大会、チェンソーアート実演、ステージショーのほか、町政施行20周年を記念した苗木の無料配布など多彩な催しが行われました。



▲長蛇の列ができた串もち販売



▲旬の野菜がずらり

11/8



おにぎらず教室で仲間づくり

JA女性部はJA本店で「おにぎらず料理講習会」を開きました。昨年に引き続き2回目となる今回は33人が参加。家の光協会の冊子「家の光」や「ちやぐりん」の活用方法や新米の食べ比べ、地元野菜をふんだんに使用したおにぎらず作りを通して交流を深めていました。

今回作ったおにぎらずは3種類(P16参照)。参加者からは「簡単につくれるので、忙しい朝に作りたい」「一つのおにぎらずからたくさんの食材が食べられるのでうれしい」「女性部の活動に参加してみたい」と喜びの声が多く聞かれました。



▲おにぎらず作りに挑戦した参加者の皆さん

10/25 全日本ホルスタイン共進会



青森県代表らと関係者



共進会の様子

北海道で開催された「全日本ホルスタイン共進会（全ホル共）」に青森県代表としてＪＡゆうき青森管内から５頭が選ばれ、日頃の成果を披露した。

全ホル共は、「乳牛オリンピック」とも呼ばれ、各都道府県が代表するホルスタイン種を一堂に集めて５年に一度開催される。前回大会は新型コロナウイルス

の影響により中止。今年は１０年ぶりの開催となり、全国から２０部３８６頭が出場した。

ＪＡゆうき青森からは、六ヶ所村の阿部亨さん、五十嵐泰士さん、東北町の伊藤彰英さんが青森県代表として出場。上位入賞は叶わなかったが、出場者らは「他県の畜産農家の技術力の高さを見ることができた。この経験をもとに自分の技術に磨きをかけたい」と語った。

11/11 女性部天間林支部 フルーツサンド作り



フルーツサンド作りを楽しむ部員ら

ＪＡゆうき青森女性部天間林支部は１１日、部員の親睦を図ろうとカルチャー教室を開催した。部員３５人が参加し、キウイとみかんのフルーツサンド作りなどを楽しんだ。

料理教室の講師は、津軽地域で料理教室を開催している高谷香織さんが務めた。部員らは協力しながら生クリームを泡立てた後、カットした断面を予想しながらフルーツをサンド。冷凍庫で２０分ほど冷やしカットすると美しい断面が現れ、「かわいい！」と歓声が挙がった。部員らは「皆で協力するのが楽しい。見栄えが良くできてよかった」と笑顔を見せた。

料理教室の前には、日本原燃㈱の職員から身近にある放射線などについて学んだ。

11/12 「アピオス大きくなったよ」 天間林小３年生



楽しんで収穫する児童ら

七戸町立天間林小学校の３年生４４人は、今年５月に植付したアピオスの収穫体験学習を行った。地元の生産者やＪＡゆうき青森の職員が作業を手伝い、コンテナいっぱい収穫した。

児童らは、慣れない熊手を使って土を掘り起こしながら収穫。大きく育ったものや長く連なったアピオスを見つけると歓声や笑い声が飛び交った。

児童らは、「大きく育って嬉しい。早く食べたい」と笑顔で語った。

糖度を高めるため追熟した後は、１月に調理実習で味わう予定だ。



地元産農産物が魅力 メイプルタウンフェスタ2025

青年部六戸地区と女性部六戸支部、JAおいらせ六戸支店は11月1日、2日の2日間、六戸町のメイプルタウンフェスタ2025に参加しました。フェスタならではの特価販売や地元産農産物の消費拡大を図りました。

1日目はあいにくの天候で午後からの販売となり、青年部は米や野菜、りんごなど、女性部は串餅を販売しました。悪天候に見舞われながらも、大特価での販売に来場者はとても満足した様子でした。

JAおいらせ六戸支店は担い手農家と職員の交流を図ることを目的に、六戸支店勤務の職員が女性部の出店運営に協力し、青年部、女性部員と共に地域住民へ地域農業とJAをPRしました。



管内でごぼう収穫盛ん

JAおいらせ管内では、秋の訪れとともに、ごぼうの収穫が最盛期を迎えています。（取材日：10月下旬）二又薫さんは自身が育てたごぼうについて「今年は春から乾燥した天気で生育は揃わなかったが、8月からの好天に恵まれ満足いく生育となった。」と話しました。

JAおいらせやさい推進委員会ごぼう部会では、令和7年度のごぼう販売計画目標を7,200トンとしており、収穫は降雪するまで続く予定です。北海道、沖縄を除く全国各地へ出荷されます。



採種圃で農業体験研修

10月16日から18日にかけて、にんにく採種圃で職員農業体験研修を行いました。農業体験を通して、農業についての知識・理解を深めるとともに、農業者の心情を理解できる職員を育てることを目的としたこの研修では、入組5年目までの若手職員が、圃場でのにんにくの植え付け作業を行いました。

今回植え付けたにんにくは、来年の6月に収穫する予定です。参加した職員は「植え付けは大変だったが、来年の収穫が楽しみ」と話し、慣れない作業に汗を流し、農業への理解を深めました。



乙女座
8/23～9/22

【全体運】気が多くなりがちなので欲張り過ぎないように。用事はリストアップし優先順位を整理。後半は助けてくれる人あり。
【健康運】香りの良い入浴剤で、ゆったりとバスタイムを。
【幸運の食べ物】野沢菜

獅子座
7/23～8/22

【全体運】おしゃれをして外出を。特別なことをすると勢いにつき目標達成に近づけます。会合などの世話役を引き受けて。
【健康運】ゆったりした散歩がお勧め。軽い運動で好循環。
【幸運の食べ物】ユズ



令和7年度JA八戸五戸支店 年金友の会集い



▲ 集いを堪能した会員

五戸支店は11月8日、岩手県のアグリパークおおさわで年金友の会集いを開催し、会員23人が参加しました。佐々木福栄会長は「集いに参加する人数が昨年よりも減っています。せっかくJAで年金を受給しているので、会員はもちろんのこと、会員ではない友達、知り合いなどにも声をかけてJAに指定替えいただき、みんな誘いあって行事にどんどん参加してください」と呼びかけました。

会員はおいしい料理と八仙などのお酒に舌鼓を打ち、温泉も堪能しました。余興では、カラオケや踊りを楽しみ、笑い声で会場中を賑わせました。参加者は「たくさん笑って、ストレス発散にもなりました」と話しました。

五戸支店 年金友の会集い



▲ 出荷基準を確認する生産者

を収穫するよう心掛けてください」とあいさつしました。

全農あおもりりんご課と千葉青果が販売状況を報告したほか、三戸営農センターの小野宏典係長が荷受体制と入庫方法について説明。さらに、畑中喜浩JA販売担当は「カメムシやカイガラムシなどの被害が見られ、選果格別になる果実が多いと思います。格別品の販売も尽力し、手取りの底上げを行っておりますので、JAへ出荷協力をお願いいたします」と呼びかけました。

りんご専門部三戸支店は10月29日、三戸営農センターでりんご晩成種目揃会を行い、20人が参加しました。

佐々木幸雄支部長は「本年は病害虫被害が多いと思います。収穫の合間に着色管理など忙しい時期を迎えておりますが、そのような中でも、品質のよいもの

りんご晩成種目揃会



令和7年度JA八戸倉石支店 年金友の会集い



▲ 集いを楽しんだ会員

倉石支店は11月18日、グランドサンピア八戸で年金友の会集いを開催し、28人が参加しました。

久保哲男会長は「会員の皆さん、多数ご参加いただきありがとうございます。会員同士交流を深め、楽しんでいってください」とあいさつ。

参加者は料理や温泉を堪能したほか、カラオケを楽しみました。プロ顔負けの歌声を披露し、支店職員からプレゼントが手渡されました。さらに、歌声に合わせて参加者が踊り、会場を盛り上げました。

参加者は「料理もおいしく、歌や踊りと楽しめました。来年もぜひ参加したい」と話しました。

倉石支店 年金友の会集い



▲ 野菜を買い求める来場者

JA八戸アグリマーケット八菜館友の会は11月15日と16日の両日、八菜館収穫祭を開催しました。

店内では葉物野菜、りんごなどを販売。店外ではテントを設置し、大根やハクサイ、赤かぶなどの漬物用の野菜が人気を集めました。

また、(株)ばるじゃサービスの社員が焼き鳥や串もちなどを販売し、来場者はおやつや家族へのお土産として購入しました。

来場者は「漬物用の野菜が購入できるので、毎年来ています。今年も立派な野菜が並んでおり良かった」と話しました。

八菜館収穫祭



©みんなのよい食プロジェクト